

令和4年度 学力向上プラン

学校名 中央区立明正小学校

学校の教育目標

よく考える子ども なかのよい子ども 健康な子ども

教育目標を達成するために学校として重点的に育成を目指す資質・能力（確かな学力向上にかかわる内容）

【学校において育成する資質能力】問題解決学習の過程からの「思考力・判断力」

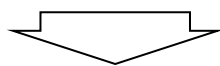
- ・少人数指導や補習教室等で基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得を図る。
- ・問題解決学習の学習過程を設定し、思考力・判断力・表現力等を育成する。
- ・自分から進んで課題に取り組むなど、児童の主体的な学習態度を育成する。
- ・児童同士の交流等を通して自他のよさや可能性に気付かせる。多様性や協働性を重視する。
- ・聞く・話す・発表する・まとめる等の言語活動を充実させる。
- ・各教科等との関連を図った教科横断的・探究的な活動、体験的・問題解決的な活動を行い、学び方やものの考え方、表現する力を身に付け、課題を探究する態度や姿勢を育成する。

令和3年度「学習力サポートテスト」や令和3年度学力向上プランの検証結果、学校評価の結果等によって明らかになった課題及び要因

	児童・生徒の学力の課題	主な要因
国語	「令和3年度学習力サポートテスト」において、どの学年も全国平均を上回っている。4年は、「書くこと」の領域が区の平均に若干届かなかった。5年は、「話す・聞く」の領域に課題が見られた。	読書に対する関心の個人差が学年が上がるほど大きい。全体的に読書の時間が不足している。また、文章の論理的な書き方、構成の仕方を学ぶ活動が不足している。 スピーチ活動などを通じた話の論点を明確にした話し方・聞き方の指導が不足している。
算数	「令和3年度学習力サポートテスト」において、どの学年もすべての領域・観点において全国平均を上回っている。一方で集団の中でばらつきがあり、学年の平均を押し上げている大きな集団と、中間層・下位層の小集団との二極化の傾向が見られる。 記述形式の問題の正答率が比較的低い。思考・判断したことを文章に表現することを苦手とする児童が見られる。	上位層の集団と下位層の小集団との2極化の傾向が顕著になりつつある。個に応じた指導の機会が十分とは言えない状況である。 答えを導き出す過程を大事にできていない場合がある。自力解決の際にはノートに自分の考えをしっかりと書かせ、その後に考え方をペアやグループで説明したり確認したり、自分の解法を振り返ったりする活動が不足している。

社 会	<p>「令和3年度学習力サポートテスト」において、どの学年も領域・観点を問わず、概ねよくできているが、地図中の8方位を答える問題や地形図を読み取る問題、国土に関する問題の正答率が比較的低い。</p>	<p>教師が知識を教えたり、教科書で知識を確認したりする指導が多く、児童が自ら問題を設定し問題解決的に学習を進める学習過程が定着していない。児童が自ら資料を収集・選択し、活用する場面が十分に設定されていない。</p> <p>地図から情報を読み取ったり、調べた内容を白地図に表したりする学習の機会が不足している。</p>
理 科	<p>「令和3年度学習力サポートテスト」において、4年「風やゴムのはたらき」「じしゃくのふしぎ」、5年「水のすがたとゆくえ」、6年「植物の花のつくりと実」「物の溶け方」の単元の正答率が低かった。</p> <p>全体的に「関心・意欲・態度」が低い傾向が見られる。</p>	<p>自然事象に関する体験が少ない。実際の観察や体験を充実させ、さらに映像や図鑑を活用し、知識・理解を深めていく必要がある。</p> <p>屋上にある花壇の数を増やしたり自由に観察できる時間を設けたりすることで、栽培活動の充実を図る必要がある。</p> <p>授業内で理解する基礎的・具体的な内容の定着で終わることが多い。抽象化・一般化し、さらに多様な内容へ学習の意識を広げたり、関心・意欲・態度を高め継続させたりする工夫が不足している</p>
英 語	<p>知識・技能の定着に個人差が大きい。全体の前で英語を話すことに消極的な児童が見られる。また、新しいフレーズがなかなか定着しない。</p>	<p>知識・技能の定着に個人差が大きいため、発音や表現に対する自信のなさが生まれてしまうと考えられる。中学校への接続を見据え、学年ごとに着実に力を積み重ねていけるように年間指導計画に沿って指導する必要がある。毎時のねらいを明確にしてALTとの事前の打ち合わせを確実にを行いT.T指導を充実させる。英語に親しませるだけでなく獲得させる知識・技能を明確にして指導に臨み、評価する。</p>
体 育	<p>「令和3年度東京都統一体力テスト」の結果において、男子は「握力」や「20mシャトルラン」、女子は「握力」や「ソフトボール投げ」の結果が伸びず、握力や投力、持久力などに課題が見られた。</p>	<p>運動量や運動経験に個人差がある。休み時間に進んで校庭で遊ぶ習慣がついていない児童がいる。今年度は新型コロナウイルス感染予防対策として外で遊べる機会が少なくなったことも運動量の低下につながった。</p> <p>また、休み時間の遊び内容が固定化し偏りが見られる。ドッジボールやキャッチボールなどボールを投げる遊びをする児童が少ない。</p> <p>体育授業において、運動量確保が不十分である。投げる運動や器械運動領域に苦手意識を持ち、進んで取り組むのに消極的な児童が見られる。</p>

学力向上に向けた視点	年度末までの目標及び指標	
①各教科	国語	「令和4年度学習力サポートテスト」の全ての実施学年で、それぞれ参加校平均点を上回るようにする。
	算数	「令和4年度学習力サポートテスト」の全ての実施学年で、それぞれ参加校平均点を上回るようにする。
	社会	「令和4年度学習力サポートテスト」の全ての実施学年で、それぞれ参加校平均点を上回るようにする。
	理科	「令和4年度学習力サポートテスト」の全ての実施学年で、それぞれ参加校平均点を上回るようにする。
	英語	学期末テスト（知識・技能を問う問題、パフォーマンステスト）において、全ての学年で全児童が70%以上を達成し、かつ達成率90%の児童が過半数となるようにする。
	体育	令和4年度東京都統一体力テストの全ての実施学年で、それぞれ参加校平均を上回るようにする。
②授業改善	学校評価の自己評価において、授業に関する項目で、全ての教員においてAB評価90%を目指す。	
③家庭との連携	学習用具の準備や宿題の達成率を、各学級で学年末に90%以上を目指す。	
④体力向上	「令和4年度東京都統一統一体力テスト」における種目「握力」「20mシャトルラン」「ソフトボール投げ」において、全ての実施学年で、それぞれ参加校平均を上回るようにする。	



【目標達成のための具体的な取組内容】

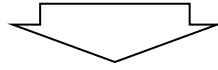
①各教科	
国語	<ul style="list-style-type: none">・基礎・基本の定着を図ることを目的としている週2回の「明正タイム」の時間や家庭学習を利用し、漢字の読み・書きを反復練習する。・国語の教科書の題材から関連した平行読書を教室で行うことで、図書と親しむ機会が増やす。・スピーチ活動の機会を増やし、事前に文章の組み立てや構成を考えながら文章を書く活動を取り入れる。スピーチを聞く際には話の論点を聞き取る活動などを取り入れる
算数	<ul style="list-style-type: none">・答えを導き出す過程を大事にする。自力解決の際にはノートやタブレットPCに文章や図、式を使って自分の考えをしっかりと書かせ、その後に考え方をペアやグループで説明したり確認したり、自分の解法を振り返ったりさせる。・振り返りなどを書かせることによって、児童が自己評価を通して学習状況を把握・調整したり、教師が学習改善につなげたりする。・東京ベーシック・ドリルや診断テストを活用し、繰り返しによる学習の定着を図ったり、学習状況を個別に把握したりする。・休み時間や明正タイム、水曜日の放課後、個人面談期間を利用して算数少人数担当による個別の指導を充実させる。
社会	<ul style="list-style-type: none">・グラフや表、写真だけでなく、地図から読み取る活動をすべての学年において意図的に取り入れる。・各単元で獲得すべき知識事項をしっかりと教えられるように、単元のどこで知識を獲得させ、どこで知識を使って思考させるのか単元指導計画を明確にして指導に臨む。
理科	<ul style="list-style-type: none">・タブレットPCによる記録を通して、事物を撮影したものをじっくり見たり、録画した事象を何度も繰り返し確認したりすることを通して結果を実感の伴ったものとして受け止められる場面を意図的に設定する。・問題に対する予想を考える際に、生活経験や既習内容に目を向けるはたらきかけを行うことで日常に関連付けた考え方の素地をつくる。・予想を検証するための実験方法を児童自ら立案させることで、主体的な学習活動を促す。
英語	<ul style="list-style-type: none">・全学年を通じて、様々なゲーム活動やコミュニケーション活動を行い、楽しみながら英語を使えるように活動を計画していく。・毎時間の学習の流れをパターン化することにより、見通しを持って活動できるようにする。1時間のめあてを具体的に示したりゴールを明確にしたりするために、授業の流れを示すアジェンダを黒板に掲示し、担任が自分で授業を組み立てていくことを目指す。・学習の終わりに振り返りを行い、児童自身が成長や課題に気付き、今後の目標設定をできるようにする。

体育	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が自分の目標やめあてをもって粘り強くなわとびやペースランニングに取り組めるように働きかけ、また、巧緻性や持久力向上を図る。 ・休み時間（内遊び）でも行える握力・投力の向上につながる活動（紙鉄砲やメンコのような遊び）を紹介する。
----	---

②授業改善	
取組Ⅰ	「中央区小学校授業スタンダード」を授業設計のベースとし、校内で互いに授業公開（毎学期に「どうぞじゆうに週間」、3回の自主研修会）をすることで学校全体の授業力向上を目指す。
取組Ⅱ	校内研究を中心として、問題解決的な学習や対話的な学び・学習評価の在り方を共通理解し、各教科の指導に波及させる。

③家庭との連携	
取組Ⅰ	<p>保護者会や学年便り等で学習状況や学校での取組を伝え、発達段階に応じて家庭での学習の協力を依頼する。音読や自主学习ノートなどへの押印や記入などを通して保護者の関わりを増やし、理解と協力を得る。</p> <p>また、1学期末と2学期末の個人面談において児童の学力・学習状況について具体的な資料をもとにしながら成果と課題を学校と家庭で共有する。今後の指導の方針を明確にし、学校と家庭とで同じ方針をもって児童の指導にあたるようにする。</p>
取組Ⅱ	夏休みの期間を活用し、家庭の理解と協力を得て、基礎的・基本的な学力の定着を目指した夏季学習教室を実施する。

④体力向上	
取組Ⅰ	「なわとび」は、体育朝会やなわとび朝会を月に1度設定し、記録向上を目指して練習に励む。また、6年間継続して使用するめあてカードを活用することで年間を通して各個人がめあてをもって取り組めるようにする。また、「なわとび」・「ペースランニング」の全校での大会を設定する。実施前に各自の目標をめあてカードに書き、期間を設けて集中して練習に励めるようにする。事後には振り返りをし、成果と課題、今後のめあてを自覚させる。
取組Ⅱ	本校のマイスクールスポーツである「なわとび大会」と「マラソン大会」の取組を公開し、家庭からの理解と協力を得て、児童の意欲喚起を継続して図る。また休み時間の外遊びで、ボール投げや鉄棒などの遊具を使った遊びを奨励することにより、握力や投力の向上にもつなげていく。



【取組結果の検証】

学力向上に向けた視点		取組の成果	取組の課題及び解決策
①学力基盤	国語		
	算数・数学		
	社会		
	理科		
	英語		
	体育・保健体育		
②授業改善			
③家庭との連携			
④体力向上			